

3 遺跡の地層

大きく5層に分けられます。ただし、地層の乱れが多く、標高の高い部分は江戸時代以降の宅地化に伴い、低い部分は昭和35年以降の耕地整理で土地改変がされていました。

- I層 15～20cm 灰黄褐色シルト。表土層です。低地では水田耕作土となります。
- II層 10～15cm にぶい黄褐色シルト。江戸時代以降の遺物が見られます。
- III層 15～20cm 暗褐色シルト。炭化粒を少量含み、中世の遺物が見られます。ただし、遺物は多く出土しません
- IV層 5～15cm 黄褐色シルト～粘土。無遺物層に近い層で、この面で遺構を見つけます。
- V層 30cm～ 明黄褐色シルト～粘土。無遺物層（地山）です。



23K グリッド付近の地層（南から）

4 遺構

今回の調査区では、溝、井戸、ピット、道路、掘立柱建物、用水路などが見つかりました。これらは古代、中世、江戸時代以降とさまざまな時代のもので、土器や埋まった土などから時代を決定しました。

古代

溝が2条です。いずれも土器などは出ませんが、土の色から古代の溝と判断しました。周辺から出土した土器から9世紀前後と思われます。

中世

道路 昨年度の調査区から連続し、東から西に延び、途中で南に折れ曲がる2条の並行する溝です。側溝を含めた全体の幅が、7.5～9.0mの大規模なものです。昨年度の調査区も含めると長さは80mになります。調査区の東側は、昨年度の調査や試掘りの結果から北に折れ、飯田川に向かうものと考えられます。北側の溝は幅2.0～2.9m、深さ60～70cm、南側の溝は幅1.3～1.9m、深さ50～55cmです。底面は緩やかに湾曲していますが、ほぼ平坦で、立ち上がりは



古代の溝（東から）



道路（東から）